

金子俊平 国政報告

発行：衆議院議員 金子俊平事務所（〒509-0202 可児市中恵土 2337-1 TEL:0574-61-3288）令和3年8月22日

金子俊平と子育てママと現役大学生による 教育についての意見交換会



このお盆にかけての豪雨により被災された皆さまに、心からお見舞いを申し上げます。

社会が大きく変化するなかで私たちが未来を担う子どもたちのために出来ることは何か。子育て真っ最中の高田綾子さん、現役大学生でNPO法人『縁塾』代表の佐藤俊介さんと意見交換を行いました。昨年度から小中学校では新学習指導要領が施行され一人一台のコンピュータを整備する『GIGAスクール構想』が前

倒しになるなど、教育現場でも大きな変化が起きています。私も二児の父親として、子ども・子育て政策について一元化して対応する「こども庁」の創設を求める提言をまとめるなど積極的に取り組んでいます。今回は「ブラック校則」と「不登校」ふたつのテーマが中心です。詳細は裏面をご覧ください。今後も様々な分野についての意見交換会を開催いたします。高田さん、佐藤さん、貴重なご意見をいただきありがとうございます。



高田綾子さん（中央）と佐藤俊介さん（右）

「こども庁」の創設に向けて～どうして「こども庁」が必要なの？～

日本では労働環境の変化などに伴う出生率の低下により1970年代半ばから40年以上も少子化現象が続いています。この問題が解決しづらい要因のひとつに、子ども関連の政策を様々な省庁でバラバラに行っており、国の取り組みが一本化されていないことが挙げられます。これらを踏まえ子どもを真ん中に置いた社会づくりの大きな一歩として、一元的に子ども関連の政策を進める組織としての「こども庁」の創設を提案しています。ひとりひとりが理解を深め、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを目指します。



◎個性と時代にあった教育を！

佐藤：昔からの慣習で髪型や服装等が制限されるいわゆる『ブラック校則』について大人の社会とかけ離れていると思うのですがどう思いますか？

金子：「子どもの個性を尊重する」ということは非常に大切です。一方で、その個性が相手に恐怖や威圧感を与えてしまうこともあり得ます。生徒会などで児童・生徒が自ら校則を決めるような機会がもっとあっても良いと思います。

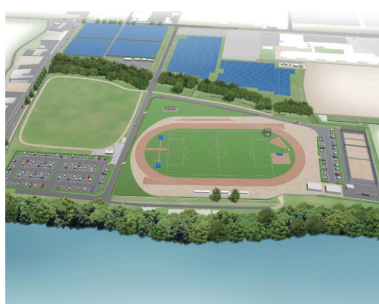
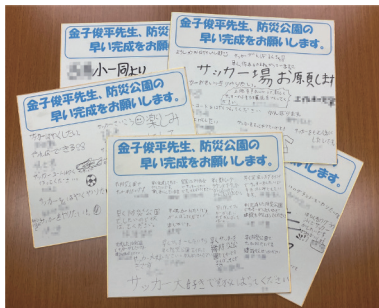
高田：不登校の問題について、適応指導教室こそありますが、学校に行かなくても社会で活躍出来る環境を整えてあげたいと思っています。

金子：岐阜市では不登校の生徒のための公立中学校が開校しましたが予算規模や人口規模を考えると全ての地域に設置することは難しいです。地域をまたいで、時には国が主導しながら子どもの



◎牧野ふれあい広場起工式

美濃加茂市牧野にて「牧野ふれあい広場」の起工式が行われました。可茂地域にはない400mトラックを有する陸上競技場やアーチェリー場のほか天然芝のサッカー場が整備されます。また災害時には自衛隊や救助隊の拠点となり消防訓練も可能な駐車場や周遊散策路も完備されます。地元のサッカー少年団の選手の方々からは期待を込めた色紙をいただきました。「楽しみにしています！」という地域の皆さまや各スポーツ団体の皆さまの熱い期待に応えられるよう引き続き事業推進のためしっかりと取り組みます！



◎一人一人と向き合える環境へ



ニーズに合わせた環境づくりを進めていく必要があると私も考えています。

佐藤：一人一人の児童・生徒と向き合うためスクールカウンセラーを重視するべきだと思います。

金子：担任の先生で対応しきれない部分もあるなかスクールカウンセラーは非常に大切な役割を担うと思います。1学級あたりの適切な人数を考えることも必要です。様々な政策をどの順序で実行していくのかを考えていきます。また、公認心理師や心理カウンセラーなどのスキルを持つ先生を育てる環境づくりも重要です。自民党の若手議員で提言した「こども庁」の議論をはじめ子どもの意見を尊重し、しっかりと実践できる環境づくりを目指してこれからも取り組んでまいります。

◎加茂地区活動アルバム

企業や地域の皆さまのもとを一軒一軒訪問し、お話をお伺いしています。訪問させていただいた際は是非とも忌憚のないご意見をお聞かせください！



SNSにて活動情報発信中！フォローよろしくお願いします！